

命の大切さを学び 思いやりの心を育てます

ペットを飼う家庭にはいくつかの形があります。子どもがいる家庭では、子どもがペットを欲しがり、飼い始めるパターンも多く見られます。ペットは子どもの情操教育にどういった影響を与えるのか？子どもとペットの絆について考えます。

7人、8匹の大家族

岡島家は、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、長男の壘くん、長女の萌ちゃん、次女の雛ちゃんの7人家族ですが、そこに、ミニチュアダックスフンドのチヨコと、ラブラドルのクロ、そして猫6匹の、総勢7人8匹の大家族です。

チヨコは萌ちゃんの犬のお気に入り、朝学校に行くときには、「いってきます」と必ず声をかけ、帰って来たら「ただいま」と頭をなでてあげます。萌ちゃんはまだ小学4年生ですが、できるかぎりの世話を自分でしているそうです。「チヨコはものすごく元気。散歩に連れて行くのはちょっと大変だけど、わたしになついていてとってもかわいいです、萌ちゃんは満面の笑みで大好きなチヨコの話をしてくれます。」

り合いに子猫が捨てられていると聞き、行ってみると、なんと3匹。母、ゆき江さんは、離ればなれはかわいそうだと思い、3匹とも引き取りました。わたし自身小さいころから犬や猫を飼っていて、たくさん思い出があります。今でも動物は大好きですので、「ペットは生きている命。それは、おもちゃやテレビゲームとはまるで違うもの。楽しさや喜びだけならおもちゃからでも得ることができません、生きている動物を通してしか得られないものもたくさんあると思います。」

精いっぱい愛情を

犬や猫は、寿命が10数年と人間よりもとても短い動物です。子犬や子猫の段階から飼いはじめたとしても、多くの場合、やがてその死をみとめることとなります。

岡島家でも以前、ゴールデンレトリバーのハナが、がんにかかってしまったときには、

家族みんなで心配し、最大限の看病をしました。夜も交代で水を飲ませ、「がんばって」と声をかけ続けました。しかし、ハナは亡くなってしまいました。「子どもたちの悲しみはとても深かったようです。」ゆき江さんは、「命ある生き物は、いつかは、亡くなってしまふものなの。だから、後悔しないよう、精いっぱい愛情を注ぎ、責任を持って世話をし、あげることがとても大切なことなのよ」と子どもたちに話したそうです。子どもたちの机の上には、今でもハナの写真が飾ってあります。

ペットを育てることは、子どもに多大な影響を与えます。子どもは、世話やしつけへの責任、愛情の大切さ、死や別れによる命の尊さなど、さまざまなことを経験し、学んでいきます。責任を持って育てることで絆が生まれます。そしてその絆は、子どもたちを愛情深い、思いやりのある大人へと成長させていくことでしょう。

わたしたちにとって
チヨコやクロは
とっても大切な家族です



大好きなチヨコと
萌ちゃん(右)、妹の雛ちゃん



動物が大好きな岡島家
家族みんなで世話をします



妹の雛ちゃんに猫たちも
とってもなついてます



クロの散歩は
祖母恵美子さんの担当です